

## 研究室便り（2003年度）

春風が心地よい季節になりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

今年度のスタッフは、主任の神竈教授、着任されて2年目の山内教授、研究室OBでもある岡崎助教授の3人に加え、非常勤で別府大から来られる山本先生、同じく福大から来られる松塚先生の5人です。山本先生はここ数年連続ですが、松塚先生はなんと、現在博士課程の谷本くんが学部生だった頃以来、実に10年ぶりの松塚ゼミということで、張り切っている様子です。非常勤のお二方が加わり、常勤スタッフでは手薄になりがちな古代史とイギリス（近代）史をカバーすることが出来るようになりました。深沢先生御一人の時代に学部時代を送った筆者からみると、今の学生は恵まれていると思います。

最近の研究室の行事について報告いたします。3月初旬に百道のとあるレストランで卒業パーティが開かれ、4年生7名、修士2年生2名の新たな出発を盛大に祝いました。不況の折就職活動が長期化しており、学生にとっては厳しい時代ですが、幸い卒業生の多くは就職・進学先が決まり、嬉しい限りです。例年のごとく、卒業生へは寄せ書きと花束が、そのお礼に卒業生から、辞書と学生向けの史料集が後輩たちに送られました。和やかな雰囲気の中、これから日本各地で社会人として新たなスタートを切る学生たちを、気持ちよく送り出すことが出来ました。

また3月25日には卒業式が行われ、色とりどりの袴に身を包んだ女子学生を含む9名が卒業証書（学位記）を受け取りました。うららかな昼下がりに、少し控えめな桜が舞い散る木の下で教官3名とともに撮った集合写真は、これからも大切に保存するつもりです。

嬉しいお知らせが一つ。研究室のOGで比較社会文化学府でフランス近世史を研究している小山啓子さんが、この3月にリヨン大学での留学の成果を生かした博士論文を提出され、課程博士号を取得される運びとなりました。3月末には六本松キャンパスにて公聴会が開かれましたが、教官5人を含めて会場全体が彼女を応援する暖かい雰囲気の中無事に審査は終了し、懇親会でも大いに盛り上がりました。これもひとえに、彼女の人柄のなせる技だと思います。

そんな余韻に浸る暇もなく、4月4日に新二年生6名（男子3、女子3）が進学し、卒業生が去ったばかりの研究室がぱっと明るくなりました。また修士課程には古藤君と大場さんが進学し（いずれも内部から）、修士2年の3名（岡部君、松村さん、宮原君）とともに新しい研究室の中核をなす存在となっています。

というのも、今年度から助手制度の名残であった「助手代理」が廃止され、かわりに修士の学生を中心に研究室の運営を行うことになったのです。なかでも大場さんと古藤君のお二人は、春休みに自主的に研究室内の大掃除と図書の移動を行い、ホームページを更新するなど、忙しい勉学の合間を縫って多大な貢献をしてくれています。

おかげで、研究室に別置している雑誌と図書が以前よりも利用しやすくなり、学部学生のゼミや卒論の準備もやりやすくなったと思います。また 3 月中旬にやってきた新しいコンピューター (WinXP) もまた、大学内外の図書と論文の検索など学生たちの利便性を増しています。このようないい条件を十分に生かして、ゼミの密度や卒論の質をさらに向上させてほしいと期待しています。

このように、新しい顔ぶれとともに新しく生まれ変わった西洋史学研究室を、一度見に来ませんか？ 毎日ではありませんが博士課程の院生も時々来ておりますので、お近くにお越しの際は、是非御一報ください。またホームページも時々更新されています。お暇の折にご覧下さい。

末筆ながら、卒業生のみなさまのますますのご発展を心からお祈りいたします。

(森 崇浩)

#### 訃報

九州大学名誉教授、元文学部西洋史学講座主任教授の森洋先生は、平成 15 年 5 月 7 日午後 4 時 56 分、福岡市城南区の牟田病院において、胃がんのため逝去なさいました。享年 77 歳でした。5 月 8 日木曜日午後 7 時より、中央区の積善社福岡斎場にて通夜、5 月 9 日金曜日午前 11 時より、城南区の茶山カトリック教会にて葬儀がおこなわれました。喪主は、森和子(奥様)さまです (814-0104 城南区別府 4-13-29-309)。

先生はフランス古文書学の伝統を本研究室に根づかせる努力を続けられる一方で、フランス中世文化史、国制史などの研究を緻密かつ総合的に進めてこられました。そして、昨年、病魔と戦いつつも、御自身の編になる浩瀚な御翻訳、シュジェール著『サン・ドニ修道院長シュジェール ルイ六世伝、ルイ七世伝、定め書、献堂記、統治記』(中央公論美術出版)を刊行され、我々に研究者としてのあるべき姿をお示しになったのです。

衷心より御冥福をお祈りしたいと存じます